

佐賀大学附属図書館自己点検評価報告書（平成30年度）検証票

項番	評価項目	評価	評価についてのコメント
1	教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 十分よい <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> ある程度よい <input type="checkbox"/> 不十分	学生用資料の選定は選書専門委員会で計画的に収集されており、また学生希望図書制度や図書館サポーター学生を利用して学生のニーズにも応えられるシステムになっている。情報リテラシー教育支援では、初級・中級コースが用意され、初級コースではアクティブ・ラーニング（ゲーム形式）を取り入れるなどの工夫は高く評価できる。ラーニングコモンズとなっている1階以外にも随所に閲覧機が配置されており、学習の環境づくりが為されていることも評価される
2	研究支援	<input type="checkbox"/> 十分よい <input checked="" type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> ある程度よい <input type="checkbox"/> 不十分	研究用資料の有効利用のため、すべての資料を含むデータベースを管理し、最新情報を Web 上で公開している。電子ジャーナルの導入は、電子ジャーナル等検討専門委員会、運営委員会の協議に基づいて行われており、限られた予算を有効活用する努力がなされ、既に来年度の導入も決定されている。今後は、現在本庄キャンパスの教員に協力依頼している、紀要や博士論文以外の論文の機関リポジトリへの登録が促進されるよう、さらなる取り組みが期待される。
3	社会貢献	<input checked="" type="checkbox"/> 十分よい <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> ある程度よい <input type="checkbox"/> 不十分	市民への情報サービスとして貸し出しや文献複写サービス以外に、グループ学習室の利用も可能となっている。また、毎年11月の「図書館月間」では公開講座（講演会、貴重資料の展示会）を実施している。実施時にはアンケートで参加者の希望を聞くなど、市民のニーズに応えようとする姿勢が伺える。さらに、実習生や研修生の受け入れも積極的に行っており、図書館業務の啓蒙にも努めていることは評価に値する。
4	組織運営	<input checked="" type="checkbox"/> 十分よい <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> ある程度よい <input type="checkbox"/> 不十分	本館、分館ともに運営委員会が設置され、さらにその下に4つの専門委員会が置かれ、組織的な運営がなされている。法人化後の事務組織再編等により人員が限られている中で、財務会計システムと図書館システムを連携させることで、財務管理の効率化を図っている。また、財源が限られている中でも各部署との連携を密にし、図書の整備に努めている。研修面では非常勤職員にも参加の機会を与えており、全職員一丸となって運営に取り組む姿勢が伺える。
5	施設・設備	<input checked="" type="checkbox"/> 十分よい <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> ある程度よい <input type="checkbox"/> 不十分	図書館入り口から、全体がラーニングコモンズのフロアになっている1階がほぼ見渡せる構造になっており、学生が足を運びやすい環境を整えている。大学の図書館としては非常に親しみやすい雰囲気になっており高く評価できる。またトイレの改修を進め、利用環境の改善にも努めている。地震等の災害に対する対応として、書架に滑り止めシートを利用するなど利用者の安全への配慮もなされている。今後は、分館の老朽化への対応が早急に実現することが望まれる。
6	評価手法	<input type="checkbox"/> 十分よい <input checked="" type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> ある程度よい <input type="checkbox"/> 不十分	限られた予算と人員の中で、教育の質的転換の推進、地域に開かれた生涯学習の推進への取り組みなどへの自己評価が行われている。資料として量的情報が整理されているものの、利用者へのアンケート結果が示されていないのは残念である。利用者の声とそれへの対応を示し、その自己評価も行うことにより、成果や課題が明確になるとと思われる。

令和 2 年 2 月 19 日

検証者所属
検証者氏名

西九州大学
溝田 勝彦

